希学園　第396回　公開テスト　小5　国語　2025年5月11日実施【模範解答】　制限時間40分

1

1 ものろう（1 完答）

2 ウ

3 （記述題）

4 ほら～学者（4 完答）

5 イ

6 黄信号

7 イ

8A 根・葉（8A 完答）

B 空

C イ

9a 区別

b 待って

c 成功

d 自体

e 結果

f 注意

2

1a ロ

b ペ

c ト

2 約束～いた（2 完答）

3 C

4 （記述題）

5 重た～きた（5 完答）

6 はるかが差

7 ア

8 堪忍袋のひも

9 イ

10 予測～ない（10 完答）

11 絶交

12 白猫～けて（12 完答）

1

3 哲学という車にのりかえれば青信号になる（同意可）

でしょうか。

2

4 よつばのクローバーで作ったしおりを絶対になくさない（同意可）

という約束。

	配　点
1 8・9 2 1	各２点×１２＝２４点
1 3 2 4	各６点×　２＝１２点
その他	各４点×１６＝６４点
	１００点

希学園　第396回　公開テスト　小5　国語　2025年5月11日実施　【解説】

1

1　すぐあとの文で、「哲学も科学も、人間の好奇心をみたすために、発展させられてきた」と説明されているが、これでは条件に合わない。本文最後のほうに「ものごとを知ろうという点では科学とおなじことです」とある。「という点」という言葉にも注目したい。

2　1はエ、2はイ、3はアになる。アは前の文を言いかえたり、まとめたりするときに使う。イは前後が反対であったり、対比したりするときに使う。ウは同じようなもの、仲間になるものを並べるときに使う。エは例を挙げるときに使う。

3　前の段落では「科学という車にのって進むと赤信号にぶつかる」という内容が書かれていた。直後の「かならずしも、そうとばかりはいいきれません」は「哲学で答えが出るとはかぎらない」という意味である。あとのほうに、「さきほどの例でいうと、赤信号を青信号にする□薬が哲学なのではありません」とあることにも注意する。

4　こういう人の「答え」は「空想的」なものだった。つまり「ほら」だったのである。「ほらふき学者」という言葉の前の「科学が、哲学からわかれるまえ」も、――線③の前の「ガリレオやニュートンの時代になるまえ」と同じ内容になる。

5　アは「科学」が答えてくれるもの、ウとエは「また」で並べられており、――線④のあとの「人間が…あるのか」と同じ内容になる。イは「赤信号」がたつことになる問いだった。

6　「まえにすすむ」は青信号、「とまる」は赤信号、では「注意しろ」は何か、と考える。

7　この段落のはじめに「そこで」とあり、これは前の段落の「哲学は…」という内容の続きである。前の段落では、「哲学は、おちついてまわりのことも考えるということと結びつく」という内容が書かれていた。

8　Aは「しつこく、こまごまと」という意味になる。「葉ほり」は意味の上からはおかしいのだが、「根ほり」に語調を合わせたものである。Bは車輪などがむだに回転することだが、ここでは「発展とはならずに、同じ状態をくり返す」という意味になる。Cは「よく効く薬」という意味で、「非常に有効な解決策」という意味で使うことが多い。

9　a「区」の部首は「匚」なので、左下をつづけて書くこと。b「待」は部首がぎょうにんべんである。c「功」の右を「刀」にしない。dは同音異義語が多いので気をつけよう。eはいとへんを六画、「果」を八画で書くこと。f「意」は「音＋心」なので「竟」のような書き方をしてはいけない。

2

1　aは、足りないところ、やりそこなったところをあとから補うこと。bは、進め方の速度。cは、昔をなつかしむことだが、「昔風」という意味でも使う。

2　「信じられない」ようなことをしたから、「このみちゃんとは絶交！」と言って教室を飛び出したのである。その原因は「このみが約束を忘れていた」ことだと書かれていた。

3　――線②の言葉がふたたび出るところまでが過去の部分であり、――線①の「信じられない」という思いが実際の言葉になったのが★のあとの「信じらんないっ！」である。

4　あとのほうに「あんなに約束したのに」とあることに注目すれば、もう一つの「約束」が「しおり」に関するものであることがわかるはずである。ポイントになるのは「絶対なくしちゃだめだよ」ということなので、これを中心にまとめる。

5　前の文の「重たい…提げて登校してきた」をまとめて言いかえている部分を、これよりあとの文中からさがす。

6　直後の文ではないことに注意する。そのあとを読んでいくと、「驚いたのはそこじゃない。…ことだった」と書かれている。

7　「眉をひそめる」は、心配なことや不快なものごとで表情をゆがめることである。このみも、よつばのしおりをなくしてしまったのはさすがにまずいと思って、必死になってさがしているのだろう。

8　アのあとで、「さっき聞いたのは、不満を入れた袋のひもがブチ切れた音だと思った」とある、この「袋」は、次の文で「堪忍袋」というものだと書かれていた。ただし、慣用表現としては、「ひも」ではなく、「堪忍袋の緒が切れる」という形で使う。

9　「場面」が変わるところである。場面を変える要素は、①時間、②場所、③登場人物、になる。③については、人物の出入りや心情の変化などで変わるが、ここでは「白猫」の登場があてはまる。

10　「ことをするような」という言葉が大きなヒントになる。具体的な行動が書かれているのは「違う曜日の…」の段落だが、これはその前の「このみの行動はまったく予測不能で突拍子がない」ということの例である。

11　「このみちゃんとは絶交！」と言って飛び出してきたことをおさえる。このみが何かするたびに後始末をしてきたのは「がまんしていたのだ」と気づき、「もうこのみとは付き合えない」と思ったのである。

12　☆の前に「自分を呼んでいるみたいだった」とあった。それにつられて追いかけたのである。☆のあとでは「見覚えのない町並みに来ていることを「白猫を追いかけているうちに、どうやら迷ってしまったらしい」と説明している。

以上